

## 令和4(2022)年度 社会福祉法人ひかり福祉会 事業報告

ともに挑戦し 時にはユニークな発想で えがあふれる人生をつくります  
エンパワーメントされた組織を目指す。～互いに切磋琢磨し、向上し合える組織を目指して～

2022年度は以下の重点項目を持ち事業推進を図りました。

- ①祝祭日開所、週休2日制の実施
  - ②視野を広げる職場体験
  - ③対話フェスの開催
  - ④理解を深める2025ミーティング、ひかり福祉会2025推進
- ① PJ再始動

重点項目を具体的に振り返ります。

### ① 対話フェス(研修)

管理職セミナーを年5回、職員研修をグループ分けし実施しています。

管理職セミナーに於いては、理事、監事様に講師としてご登壇いただき、様々な考え、見方を提示していただき視野を広げることとなっています。次年度に向け広がった視野、考えを事業推進に活かす事が求められます。また職員研修に於いては、生活モデルへの転換を軸に研修を行っています。つい医学モデルで利用者を捉えがちではないか、自分自身の行動や考えを振り返る研修となっています。

### ② 体験実習

年間7日間を他事業所での体験実習、内3回はGH実習とし行っています。

各事業所での、仕事の進め方、職種、業務の違いを実感し、様々な支援が重なり利用者の日常が成り立っている事を理解していただける機会となっています。

各事業所への指摘もいくつかあり、それを元に支援提供を見直すなど良い影響もあります。タイトな日程での体験ともなり、次回の体験実習を行う際に改善しつつ、より意味ある取り組みとして継続を検討していきます。

### ③ PJ再始動、米原GH計画推進

米原蛍の家、空き地内(新築)設置に向けPJを設置します。

関係メンバーを招集し現在定期的に会議を開催しています。具体的な計画立案はこれからとなるが、自分自身が住んでみたいホームを目標としながら実現に向け検討を重ねていきます。

### ④ 事業所再編

工房ふれっしゅ、たんぼぼ作業所の事業運営一体化を行っています。

初年度を迎えるにあたり、より特色ある事業所への転換が求められます。

祝日開所、週休2日間制については、利用ニーズを各事業所で検証し開所カレンダーを設定するに至っています。出勤率についての増減は、事業所にてばらつきがある状態ですが、今後の利用していただく方も見込みつつ、更に利用しやすい開所の在り方を検討していきます。

支援の質の向上を目的とし、基礎の見直しを図り、視野を広げることを軸とした1年となっています。効果がすぐに表れる訳ではありませんが、今年度当法人内で苦情や虐待案件が挙がっている状況

です。この事を真摯に受け止め、今後も支援の向上、利用して良かったと言っただけの法人となるよう、明確な方向性を持ち、計画を立て確実に実行していく事が必要です。

障害者自立支援法（現・障害者総合支援法）の施行から14年が経過し、現在、障害福祉サービス等の利用者は約120万人、国の予算額は約1.6兆円（事業費ベースで約3.2兆円）となり、法施行当初と比較するとそれぞれ約3倍に達しているなど、障害児者への公的支援は年々拡充している。3年前（平成30年度）に創設されたサービスの整備状況が踏まえられつつ、障害者の重度化・高齢化、医療的ケア児や精神障害者の増加などに伴う障害児者のニーズに対応するため、報酬改定がまさに行われようとしてきた年度であった。また、社会の中では現役世代が減少し、福祉人材の確保が困難な状況である一方、利用者数・事業所数が大幅に増加しているサービスもあることから、サービス提供を行う施設・事業所の状況等を踏まえた上で、制度の持続可能性を確保する観点からも適切な報酬が設定されると想定もしてきた。障害や介護を含めたサービス供給バランス保持と現役世代減少という社会問題がまだまだ今後も起こる中で、働き・生活しづらい人たちも含めてすべての人が安心して暮らせる社会を目指せるにはどうすればいいか？（2020年度事業報告抜粋）

2020年当時より、社会情勢は更に悪化しているように感じます。ロシア・ウクライナ戦争、コロナウィルス。世界が繋がる戦争や感染症、そこを要因としたエネルギー、食糧への影響は物価が上がる状況となり、障害ある方はもちろん、誰もがこの事態に直面することとなっています。

そんな中、社会や地域に於いて「障害者ふくし」の位置づけは以前と比べると、共感を得にくくなっています。「障害ある方のために」これまでの声の出し方では独りよがり、孤立感を生んでしまいかねません。「障害者ふくし」だからこそ、地域課題にこちらから働きかけていく、そのような発想の転換や1歩踏み出す行動が新たな展望を生み出し、好循環を作り出すキッカケとなりうるのではないかと考えます。そこへチャレンジしうる力量や変化への対応が求められています。

2023（令和5）年03月 日理事会  
社会福祉法人ひかり福祉会  
理事長 高橋 信二